



碧南ロータリークラブ週報

第2934回例会 令和元年11月27日(水)

- 会長 伊藤 正幸
- 幹事 黒田 泰弘
- 会場監督(SAA) 永坂 誠司

2019-2020 年度 国際ロータリーのテーマ

- 例会日 毎週水曜日 12:30
- 例会場 碧南商工会議所ホール
- 事務局 碧南商工会議所内 〒447-8501 愛知県碧南市源氏神明町 90
- TEL<0566>41-1100 FAX<0566>48-1100
- ホームページ: <http://www.hekinan-rc.jp>
- E-mail: info@hekinan-rc.jp



- 会報委員 鈴木きよみ・林 俊行・平松則行・石川鋼勇

● 斉 唱

ロータリーソング「今日も楽し」

● 本日のお弁当

小伴天

● 本日のお客様

碧南市文化財課 市史資料調査員 稲垣尚人様

● 本日の卓上花

バラ、コチア、トヨロマン (アスター)

会 長 挨 拶

本日は伊藤会長が欠席されましたので、私が代理を務めさせていただきます。

本日は一編の詩を紹介致します。今年の5月に満100歳で亡くなられた山中寛三先生が平成18年に「私の身近雑記帳」という本を上梓されました。その中で先生がお気に入りの詩、ア



杉浦保子副会長

メリカのサミュエル・ウルマン 作、新井満 訳で「青春とは」という詩を寛三先生は紹介されております。その詩を今日は皆さんに紹介したいと思います。少し長いので早口で。

「青春とは」 サミュエル・ウルマン 作 新井満 訳

青春とは 真の 青春とは

若き 肉体のなかに あるのではなく 若き 精神のなかにこそ ある

薔薇色の頬 真っ赤な唇 しなやかな身体

そういうものは たいした問題ではない

問題にすべきは つよい意思 ゆたかな想像力 燃え上がる情熱
そういうものが あるか ないか
こんこんと湧き出る 泉のように
あなたの精神は 今日も新鮮だろうか いきいきしているだろうか
臆病な精神の中に 青春はない
大いなる愛のために発揮される 勇気と冒険心のなかにこそ 青春は ある
臆病な二十歳がいる 既にして 老人
勇気ある六十歳がいる 青春のまっただなか
歳を重ねただけでは 人は老いない
夢を失ったとき はじめて老いる
歳月は 皮膚にしわを刻むが 情熱を失ったとき 精神は しわだらけになる
苦悩 恐怖 自己嫌悪
それらは 精神をしぼませ ごみくずに変えてしまう
誰にとっても大切なもの それは 感動する心
次は何が起こるのだろうと
眼を輝かせる 子供のような好奇心
胸をときめかせ 未知の人生に 挑戦する 喜び
さあ 眼をとじて 想いうかべてみよう
あなたの心のなかにある 無線基地
青空高くそびえ立つ たくさんの 光り輝くアンテナ
アンテナは 受信するだろう
偉大な人々からのメッセージ
崇高な大自然からのメッセージ
世界がどんなに美しく 驚きに満ちているか
生きることが どんなに素晴らしいか
勇気と希望 ほほえみを忘れず いのちのメッセージを受信しつづけるかぎり
あなたはいつまでも 青春
だが もしあなたの 心のアンテナが 倒れ
雪のように冷たい皮肉と 氷のように頑固な失望に おおわれるならば
たとえ二十歳であったとしても あなたは立派な 老人
あなたの心のアンテナが 今日も青空高くそびえ立ち
いのちのメッセージを受信しつづけるかぎり
たとえ八十歳であったとしても あなたはつねに 青春
青春とは 真の 青春とは
若い 肉体のなかに あるのではなく 若き 精神のなかにこそ ある

寛三先生は生涯、職業奉仕に全力で取り組まれ、80歳代でパソコンをマスターされました。
90歳になられてから水彩画を通信教育で勉強され、この詩を心の糧として100歳まで青春を

生き抜かれたロータリアンでした。そのことを今日はお伝えしまして、挨拶に代えさせていただきます。

ありがとうございました。

幹事報告

本日、黒田幹事が欠席していますので、代わりに報告をさせていただきます。

- ・ 例会変更等は幹事報告書の通りです。
- ・ 会員名簿が完成し、各自の引き出しに入れてありますので、お受け取りください。
- ・ 次週、11時45分から歴代会長会議、年次総会開催、その後に第6回理事会がございますので、ご案内のメンバーの皆様はよろしくご参加をお願い致します。



鈴木泰博副幹事

委員会報告

<出席奨励ニコボックス委員会>

総会員数 66 名 (内出席免除者 15 名の内出席者 13 名) 出席者 54 名	
出席対象者 54 / 64 名	出席率 84.38%
欠席者 12 名 (病欠者 0 名)	

<ニコボックス>

- 木村 徳雄君 今年も第59回碧南市民スキー大会が令和2年2月1日～2日と長野県、白樺高原スキー場でおこなわれます。たまには、私と一緒にスキー&酒しませんか？
- 杉浦 栄次君 3クラブゴルフ大会で優勝しました。副賞で頂いたバカラのグラスで飲むお酒はサイコーです。
- 藤関 孝典君 11月23日(土)西三河分区ガバナー補佐杯親睦ゴルフ大会で運よく優勝しました。又、11月14日(木)RCゴルフ例会も優勝しました。
- 梶川 光宏君 本日の卓話講師、碧南市文化財課市史資料調査員 稲垣尚人様を紹介させていただきます。
- 牧野 勝俊君 11月20日に、碧南市との包括協定を無事締結いたしました。今後も地域発展に尽力して参ります。
- 石井 和哉君 平岩統一郎様、鈴木並生様、先日はご一緒にご歓談いただき、ありがとうございました。
- 佐久間克治君 前回、ネクタイの着用を忘れましたので、遅ればせながら、今回罰金を支払います。

「藤井達吉物語 ―アメリカ渡航の巻―」

碧南市文化財課 市史資料調査員 稲垣尚人様



稲垣尚人様

本日、碧南 RC の例会にお招きいただき、誠にありがとうございます。大変光栄で少し緊張しております。嘘です（笑）。

さて、ここで語ります藤井達吉物語でございますが、実は私絵描きでございますが、それぞれのスピリッツ展という展覧会を毎年行っておりますが、そのコンサートの前座として昨年より始めたものでございます。では、これより始めさせていただきます。よろしくお願い致します。

藤井達吉は 1881 年（明治 14 年）に棚尾村源氏に生まれております。幼少より、手先がとても器用でございましたが、人付き合いがとても悪く、一人風呂を作っては一人で上げていたため「風呂吉」と呼ばれていたと自伝「矢作堤」にございます。

棚尾小学校卒業後、半田の木綿問屋「尾白屋」に奉公し、韓国の釜山にわたって、木綿を売り、砂金に変える仕事をしておりました。しかし、生来、人付き合いの苦手な達吉でございます。商売がなかなか上手に行かず、いつも損ばかりを出しておりました。とうとう、仕事に嫌気がさし、家に戻って参ります。私は器用だから画家になりたいと希望しますが、「絵描きなどで飯が食えるわけがないだろうが。」と父親に諭されまして、母のとりなしで、やっと服部七宝店に入店致します。17 歳の時でございます。

入店した達吉はメキメキ腕を上げていきました。これは照宮成子内親王ご成婚の祝賀献納品として、達吉が下図を描き、切り透かしの技法は橋本良介、七宝は勝利彦が行った、切透七宝鳳凰瑞雲紋御手箱でございます。切り透かしの技法を後世に伝えるための達吉の配慮でした。切り透かしという高い技術を達吉が身に着けていたということでございます。高い評価を得て、アメリカの万国博覧会に七宝の展示とオークション売り立てのために渡航することになりました。

達吉は、1904 年（明治 37 年）のセントルイス万博に行ったという話なんです、どうもここがおかしい。ちょうど日露戦争が始まった年です。また、この年に岡倉天心がボストン美術館に中国・日本美術部長として迎えられています。ところが、自伝「矢作堤」には、「日露戦争の講和が結ばれた。」と書いてあります。日露戦争が終わったのが 1905 年（明治 38 年）ですので、1 年合いません。じゃあ、どういうことだったのでしょか？ということで、最近の研究で達吉が 1905 年（明治 38 年）に渡米したことが判明しました。それを発見したのが、昨年まで当館におりました土生和彦学芸員でございます。達吉は、渡航滞在中に何通もはがきを出し、その消印からアメリカ渡航の足取りがつかめてきました。アメリカのバンクーバーで足止めをくらい、服部七宝店一行とはぐれた上にオークションの商談もうまくいかず、散々な目にあった達吉。しかし、旅の最後に立ち寄ったボストン美術館が彼の運命を変えることとなります。ボストン美術館は独立 100 周年を記念して、1876 年（明治 9 年）にオープンしております。実は世界の名立たる美術館の中で、東洋美術、特に日本美術のコ

レクシヨンの多さはボストンが随一でございます。

なぜ、優れた日本の美術品がボストンに集まったかという、日本美術コレクターのモース、フェノロサ、ビゲローという3人のアメリカ人と、もう1人肝心な人がおりました。岡倉天心であります。当時、明治の日本は文明開化で、江戸時代の古いものを捨てて、新しい西洋文化を取り入れました。その上、明治新政府が出したとんでもない命令（神仏分離と廃仏毀釈令）で多くの寺が壊され、仏像が売られたり壊されたりしました。碧南市大浜の海徳寺にある大浜大仏も三重県伊勢神宮内宮近くにあった神宮寺が壊され、その本尊を守るため大浜に移されたものであります。日本の貴重な美術品が失われるのを悲しんだフェノロサは捨て去られる美術品を買い集めていきます。それを助けたのが岡倉天心でした。当時のことを考えますと、日本は開国と共に西洋の文化を取り入れなくてはいけないということで、何が失われたかという、日本のたくさんの素晴らしい工芸品や仏像だったんです。それを見た西洋人は日本の文化の凄さに気付き、一大日本ブーム（ジャポニスム）が起きました。日本から優れた仏像や美術工芸品が海外に売られ、手にした西洋人は日本の文化に憧れました。今の日本アニメ、漫画、ゲームの流行と同じであります。モネやマネなどの印象派の画家たちは日本の美術を愛好し、着物や浮世絵、掛け軸などを購入しました。歌川広重や葛飾北斎の浮世絵や北斎漫画などの本は、美術品の梱包材として出回り、その大胆な構図や平面的な画面の美しさに多くの画家が影響されていきます。

そして、日本ブーム（ジャポニスム）が過ぎ去った頃、ヨーロッパを中心に新しいデザイン・芸術運動が起こります。日本の花鳥風月を装飾に生かし、優雅な曲線の特徴とするアールヌーヴォーです。映画「ティファニーで朝食を」のティファニーや日本で人気のエミールガレなど日本人が高価なお金を出して購入するデザインブランドの基礎となりました。こういうブームがちょうど大正の頃に日本に入ってきます。もちろん、達吉もアールヌーヴォーの影響を受けていたと思われまふ。しかし、達吉のデザインはどこか違いました。なぜかと言うと、やはり日本の技術の素晴らしさを達吉は知っておったのでありまふ。要は日本の美術から離れなかつたのです。達吉は日本の絵を愛してやまず、日本の美術が一番素晴らしいとしてきた人だった訳です。今考えれば、何も知らずに「ピカソは凄いいね。ゴッホは良いわ。ティファニーは凄いいね。ヴィトンが良いわ。シャネルが良いわ。アルマーニだわ。」と言っている日本人がなんと多いことでしょうか。達吉はそれを嘆いておったのかもしれまふ。

アメリカ渡航の後、服部七宝店を辞め、達吉は東京に向かって芸術の道に進むのであります。

以上、藤井達吉物語アメリカ渡航のお話を終わりたいと思います。

ご清聴ありがとうございました。

次回例会案内

令和元年12月11日（水）

卓話「温暖化による台風強大化と高潮大災害の脅威」

愛知工科大学 学長 安田孝志氏